

事業所における自己評価結果(公表)

事業所名: 多摩市ひまわり教室

配布数:15名 回収数:13名 回収率:93%

公表: 令和6年2月1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	76.9%	23.1%	エリアをマットや棚で仕切り、少人数での活動が実施できるようにしています。また、クラス以外の個別室やプレイルームなども空き状況を確認しながら、積極的に使用しています。	指定基準の約3倍の広さがあります。クラス以外のベランダや広場、個別室やプレイルームなどを有効に活用していきます。また、近隣の公園や遊歩道などの社会資源も積極的に活用していきます。
	②	職員の配置数は適切である	53.8%	46.2%	国基準に東京都の加算を入れると、定員27名のひまわり教室は職員数が7名(1日当たり)となっておりますが、多摩市は9名で予算化しています。また、職員の病休や研修、出張等を想定して、今年度は毎日12～13名を雇用しており、昨年度より1名多い配置となっております。	環境調整や活動内容などを工夫し、子どもたちが主体的に行動できるように支援することで、職員が足りないと感じる場面が少なくなるように、職員のスキル向上に努めます。また、クラス間でスタッフ配置など連携しながら、事業所全体で運営していきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	92.3%	7.7%	マットや棚などでエリアを仕切り、各スペースの使い方を分かりやすくしています。また、活動に応じて棚やパーテーションを移動させ、子どもたちが活動に取り組みやすい空間を作っています。こどもに合わせて写真やイラスト、マークなどを提示し、こどもたちが分かって行動できることを大切にしています。	引き続き、子どもたちが「分かる」空間づくりや視覚支援等を提供していきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	61.5%	38.5%	室内消毒、玩具の消毒、掃除を毎日実施し、衛生に努めています。また、年3回大掃除を実施しています。年3回業者による床清掃を多摩市の依頼で実施しています。	定期的に床の水拭きを実施し、より清潔な環境を提供します。また、療育時間中にもすぐに汚れた個所を拭けるように、手洗い場やトイレに雑巾を設置し、常に清潔な空間を心がけます。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	69.2%	30.8%	全体会議の中で改善点や対応方法、振り返り等を話し合う機会を設けています。	改善したい事柄について提案できる仕組み(投稿フォルダ)を作り、職員の意見を広く吸い上げます。提案内容については全体会議で検討します。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%	0.0%	保護者の方からのご意見は会議で検討し、保護者会で説明しています。	これまで未実施だった行事アンケートの結果と検討事項についても、保護者会等で説明していきます。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	84.6%	15.4%	自己評価や保護者アンケートの結果をもとに改善策等を検討しています。その内容については、毎年2月に法人のホームページで公表しています。	今後ともご意見をいただきながら、サービスの質の向上に努めます。また、いただいたご意見とその対応は、多摩市発達支援室と共有します。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
業務改善	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100.0%	0.0%	実施主体の多摩市の計画により、3年に1回第三者評価を受審しています。	第三者評価機関に加えて、スーパーバイズやオンブズマン活動を導入し、外部評価を実施しています。指摘事項については、会議で検討し、改善に向けて取り組んでいます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%	0.0%	法人全体会(年2回)、サポーターズカレッジ(33コンテンツ必須)、児童分野研修(年2回)、研修委員会主催の研修(階層別)、事業所内事例検討(年6回)、勉強会(リスクマネジメント、普通救命、安全運転、虐待防止、感染症予防・対応)、LIBO(発達障害に関する研修、12回分)、法人内実務者研修(他事業所での実地研修)を実施しています。また、各種外部研修(摂食、発達など)に参加しています。	法人内の研修や事業所内での研修、事例検討会などの機会が充実しています。その機会を積極的に活用し、職員の資質の向上に努めます。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	個別支援計画の各項目ごと(大項目4、小項目10)にアセスメントを実施し、その中から優先順位を6～7項目に絞って計画を作成しています。また、クラス担任だけではなく、専門職(心理、ST、OT)とも話し合いながら、様々な視点でアセスメントし、計画を立てることを大切にしています。	引き続き、クラス療育、個別療育、発達検査等を通してアセスメントし、こども・保護者のニーズを捉え、個別支援計画を作成していきます。また、日々の振り返りや専門職のフィードバックの時間を確保することで、多角的な視点でアセスメントすることを大切にします。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	76.9%	23.1%	入園時に心理、ST、OTの担当者による発達検査や評価を実施し、必要に応じて1年後に再評価を実施しています。	法人内の児童発達支援事業所共通のアセスメントシートを作成しました。令和6年度より、その共通のアセスメントシートを使用します。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%	0.0%	「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」に対応した項目(大項目4、小項目10)の中から、こどもの発達ニーズと保護者の希望に応じた項目を選択し、ねらいと支援内容を設定しています。	引き続き、クラス療育や個別療育、発達検査等を通し、こどもの発達ニーズと保護者のニーズから発達支援に必要な項目を選択し、個別支援計画を作成していきます。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100.0%	0.0%	月案や日案を作成する際には、こどもの個々のねらいに添った支援を提供できるように、活動内容とこどものグルーピング、活動の個別的な準備を行っています。	引き続き、活動や日々の関わりは常に支援計画のねらいに沿って支援を実施します。また、こどもは日々発達をしていくという観点から、アセスメント力を向上させることで、こどもに必要な支援を提供していきます。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	92.3%	7.7%	常勤のクラス担任が相談しながら立案しています。活動によっては他クラスとの連携も行っています。	活動プログラムは常勤のクラス担任が立案しますが、日々の療育の振り返りや記録を丁寧に行うことで、立案時に非常勤スタッフの意見も取り入れ、チームで立案していきます。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%	0.0%	こどもの発達段階やねらいに合わせて、同じ活動を繰り返し提供することもあります。同じ活動の中で少しずつ変化させたり、発展させることを意識しています。	引き続き、こどもの発達段階やねらいに合わせて活動を提供していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	「個が集まって集団を形成している」という考えから、グループ活動においても、個々に応じた準備をしています。 また、必要に応じて心理・ST・OTの個別又は小グループ療育を提供しています。	年に1回、発達検査や個別療育担当者による評価を行い、こどもに必要な個別療育の種類や頻度を決定しています。それを踏まえたうえで、個別支援計画を作成していきます。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	76.9%	23.1%	朝のミーティングで、クラス毎に活動内容とそのねらい、送迎やお預かりサービスの体制、事務連絡等の共有をしています。 クラス内の活動や食事の配置などはボードを使用し、各スタッフが確認できるようにしています。	活動の流れや、活動や食事などのスタッフ配置はボードの使用を継続していきます。また、必要に応じて送迎スタッフの調整をし、内容や役割分担を確認できるようにしていきます。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100.0%	0.0%	その日のお預かりサービスや面談、会議などの予定に合わせて、流動的にクラスの振り返りを実施できるように体制を整えています。	引き続き、クラスの振り返りを実施できるよう、事業所全体で調整し、体制を整えていきます。また、気が付いたことや変更点等を記載するクラスノートも合わせて活用していきます。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	84.6%	15.4%	日中支援記録は、個別支援計画の各項目のねらいとなるキーワードをあらかじめ入力しておくことで、記録時にねらいに沿った支援の様子を記載できるように工夫しています。記録をICT化したことで、支援の検証が効率的になりました。	記録のICT化で、支援の検証は効率的になりましたが、日々の記録の入力時間の確保が難しい状況です。業務を見直し、記録時間を確保します。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	92.3%	7.7%	半期ごとに担当者を中心に、関係者から情報収集し、モニタリングを実施し、見直しています。こどもの発達ニーズに合わせて、個別支援計画を修正しています。	引き続き、半期ごとにモニタリングを実施し、こどもの発達ニーズと保護者のニーズに合わせて、支援計画を変更します。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	100.0%	0.0%	全員セルフプランのため、障害児相談支援事業所主催のサービス担当者会議はありません。 多摩市発達支援室と月1回の連絡会を開催し、情報を共有しています。 施設長、支援課長、各クラス担任1名と多摩市発達支援室職員で情報共有をしています。	引き続き、多摩市発達支援室との連絡会には、施設長と各クラスの担任が参加し、情報共有を図ります。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100.0%	0.0%	健康センター、子ども家庭支援センターとは、多摩市発達支援室と一緒に連携しています。 必要に応じて並行通園児の所属する保育園や幼稚園を訪問し、行動観察と支援の共有を行っています。	引き続き、関係機関と連携しながらこども、親子、家族の支援をしていきます。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100.0%	0.0%	保護者の了解のもと、支援引継ぎシートを作成し、移行先の機関に説明を行っています。また、移行後は所属園に訪問し、行動観察を行ったうえで、所属園の先生と情報共有等を行っています。	引き続き、支援引継ぎシートを作成し、移行先の機関に直接説明を行います。移行後の訪問に関しては、保護者の希望も確認したうえで、調整していきます。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	92.3%	7.7%	例年、4～5月に就学先に訪問し、入学前に提出している申し送り資料の説明及び入学後の様子を確認しています。	引き続き、申し送り資料を作成し、直接説明するとともに、入学後の様子を確認し、情報共有を行います。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100.0%	0.0%	法人内児童分野の事業所において、集合研修、職種別専門部会、連携会議等を開催し、学びを通して知見を拡げる機会としています。また、東京都社会福祉協議会や多摩市児童発達事業所連絡会に所属し、地域課題や幼児期から学齢期の課題について意見交換や研修を実施しています。	引き続き、法人内外における、他の事業所との情報交換や研修等を受ける機会を積極的に活用し、知見を拡げていきます。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0.0%	100.0%	現状、実施できておりません。	学童クラブとの交流や、近隣幼稚園・保育園の地域向けイベントへの参加等を検討していきます。また、図書館や児童館など地域の社会資源を積極的に活用していきます。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	61.5%	38.5%	多摩市児童発達事業所連絡会に参加しています。	引き続き、多摩市児童発達事業所連絡会に運営委員として参加していきます。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%	0.0%	親子参加週間、面談、送迎時、サービス提供記録票、メール、電話、保護者会でのクラス懇談会等のやりとりの機があります。保護者とのやりとりの内容はスタッフ間で共有しています。	特に親子参加週間や自主での送迎時等、保護者の方と直接話ができる機会を大切にしています。
保護者への説明責任等	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	69.2%	30.8%	年3回の保護者会において、学習会を開催しています。今年度は「ひまわり教室の療育」「食べることを育む」を実施しました。また、3月には感覚運動遊びについての学習会を実施予定です。	年3回の保護者会での学習会は継続して実施します。また、オンブズマン懇談会を実施し、ご家族のニーズに合ったテーマでの話し合いとすることで、家族支援の一環としていきます。
	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%	0.0%	契約時に多摩市発達支援室が実施しています。大きな変更があった時は、保護者会で説明しています。	引き続き、丁寧に説明していきます。
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100.0%	0.0%	面談前に個別支援計画(案)をお渡しし、ご家庭で話し合っていたり、面談で意見交換をして完成させています。面談では、保護者の希望を丁寧に聞き取りながら、分かりやすく説明することを心がけています。	引き続き、面談での丁寧な聞き取りと説明を心がけます。また、個別支援計画(案)は面談の直前にお渡しすることが多くあるため、面談の1週間前～3日前までにお渡しができるよう、改善していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%	0.0%	年2回の面談および、希望面談を実施し、保護者の方からの相談に応じています。また、親子参加週間や日頃の電話や送迎等でのやりとりを大切にしています。	引き続き、年2回の面談および希望に応じた希望面談を実施し、保護者からの相談をお受けしていきます。また、適切な助言を行えるよう、研修や事例検討会、日々の振り返り等でスタッフのスキル向上に努めます。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100.0%	0.0%	保護者会は年3回(5月、9月、3月)実施し、その中でクラス別懇談会を実施しています。	保護者会のクラス別懇談会では、グループワークなどを取り入れ、保護者同士の繋がりが持てるように工夫します。
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100.0%	0.0%	相談、意見、苦情等は、メール、口頭、面談、電話等の方法を周知しており、適宜対応しています。	引き続き、保護者からご意見・ご要望があった時は迅速に対応します。また、内容は多摩市発達支援室とも共有します。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100.0%	0.0%	新入園オリエンテーションで、事業内容書と入園のしおりを配布し、活動の内容とねらい、年間予定等を説明しています。 5月の保護者会では事業計画を配布し、説明しています。 毎月1回発行している「ひまわりだより」では、ひまわり教室でのこどもの様子やご家庭での様子、予定、活動の月案等を発信しています。また、特別支援療育予定は月1回配布しています。	引き続き、左記媒体により情報を発信していきます。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%	0.0%	多摩市及び法人の個人情報保護規定に則り、対応しています。	引き続き、規定に則り、対応していきます。
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%	0.0%	こどもには、理解できる方法(言葉、文字、写真カード、サイン、現物など)でやりとりすることを大切にしています。 保護者の方には、個別にメモをつけて来訪日などのリマインドを行う、配布物にマーカーを引くなど、必要に応じて配慮しています。	引き続き、必要に応じて配慮していきます。また、外国籍の方には翻訳ツールなどを使用しながら、意思の疎通や情報伝達を図ります。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	15.4%	84.6%	地域の関係機関の見学や実習生やインターンシップの受け入れを行っています。	多摩市と連携しながら、地域住民に開かれた事業運営を検討していきます。
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	92.3%	7.7%	各種マニュアルを策定し、都度職員に周知しています。 緊急時の対応や感染症の対応に関しては、実技を交えた研修を実施しています。	毎年、各種マニュアルは見直しを行い、職員に周知します。 引き続き、緊急時や感染症の対応は実技を交えた研修を実施していきます。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	92.3%	7.7%	避難訓練は毎月実施しており、年1回は保護者が災害伝言ダイヤルを利用して引き取りに来る訓練も実施しています。 今年度は災害物品の見直しも実施しました。	今後も継続して実施し、必要に応じて内容の見直しを行います。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100.0%	0.0%	入園時に健康状況調査票をご提出いただき、毎年更新をしています。資料は常にスタッフが確認できるように、整理されています。	今後も継続し、こどもの健康状況の把握に努めます。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100.0%	0.0%	入園時または発症時に、医師の指示書と保護者に依頼書をご提出いただき、適切に対応しています。	今後も継続します。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	92.3%	7.7%	法人共通の書式に、毎日の報告を記載し、月、半期、年間で集計と考察をしています。事例集の作成は、事業所単独では作成していませんが、毎月の会議で共有しています。また、職員のリスクへの意識を高めるため、毎月1回、危険予知トレーニングを実施しています。	毎日のインシデント・アクシデントの報告、毎月の集計と考察および会議での共有、危険予知トレーニングは継続して行い、安全な事業運営に努めます。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	92.3%	7.7%	法人全体会議における虐待防止研修、事業内での研修、セルフチェック(年2回)を実施し、権利擁護の視点に立ったサービスを提供できるよう体制を整えています。また、スーパーバイズやオンブズマンなどを導入し、第三者からの指摘や助言を受ける機会を設けています。	今後も定期的 to 実施します。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	61.5%	38.5%	法人の権利擁護委員会にて、身体拘束適正化についての指針を策定しました。事業所出入口は事故防止のために施錠をしているため、事業計画にその旨を記載しています。	虐待防止委員会および身体拘束適正化委員会を定期的 to 開催し、職員の理解向上に努めます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。